■ 新図書館建設にあたって

基本理念・基本方針を尊重し、
その具現化に徹する設計姿勢で臨みます。

1. すべての市民が多様に使う＜サードプレイス＞であるために

「**入りやすい**」こと。どこから訪れても気軽に入れるように、開かれた外観と、わかりやすい入口を設けます。
次に、「**居場所が見つけやすい**」こと。ふれあいたい、一人で過ごしたい…、その時々の目的や気分で、居やすい場所を随所に用意します。そして「**かかわりしろ が見つけやすい**」こと。日頃の学習の成果の発表や展示を通して、市民同士が切磋琢磨できる場を創ります。“本との出会い”も演出します。

2.＜市民参加＞で創り、育てるために

「**プロセス**」を尊重します。これまでの合意形成を基に、これからの意見集約や建築への反映を、設計→工事中→開館後へと継承します。そして、「**対話 × ビジュアル**」**戦略**として、ワークショップ開催、ツール（模型、イラスト等）、情報発信（かわら版等）などで相互理解を深めます。
「**まちじゅうどこでも図書館の中心**」として、本の“物流”とともに、人･情報の“交流”の場を使いやすく用意します。

3.＜まぶしい図書館＞であるために

対話を通して、**“まぶしい”**に込めた想いの理解に努めます。
＜惹かれる（魅力）⇔ 放つ（発信）＞
＜誇りある（歴史）⇔ 光輝く（未来）＞……
“まぶしい”人やコトに出会える、自分を**“磨ける”**場を、市民の皆様とともに創ります。
海の輝き、天空光に美しく映える建築とともに。

■ 地域再生の新拠点として

1）まちじゅうどこでも図書館構想の拠点として

常に**図書館システム構成**（図 1-1）と、**市全域マップ**（図 1-4）を念頭に置きます。**来やすさ、届けやすさ**（本・情報）、**居やすさ**を重視します。

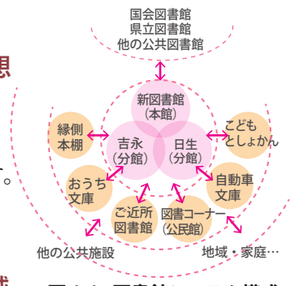


図 1-1. 図書館システム構成

2）サイクリングターミナルを地域再生に活かす

立寄りやすさ、南北軸（陸⇔海）に加え、東西軸（印部・香登方面⇔閑谷・三石方面）への**案内のしやすさ、観光振興拠点**として**図書館の可能性を引き出す役割**も発揮できます（図 1-2, 4）。

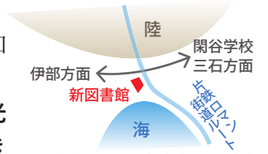


図 1-2. ルートをまちじゅうに

3）片上活性化の新拠点として

周辺の活動・ふれあいポイント（**点**）との間に行き来が生れ（**線**）、地域全体（**面**）が活性化するように、街や水辺とのつながりを工夫します（図 1-3, 5, 6）。

図 1-3. 点→線→面へ

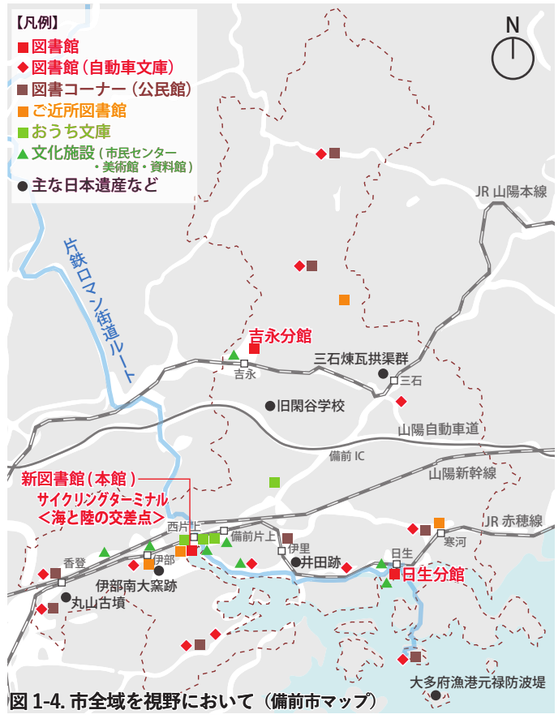


図 1-4. 市全域を視野において（備前市マップ）

図 1-5. 周辺活性化の拠点（片上エリアマップ）

図 1-6. 配置ダイアグラム（南南西を上にみる）

図 1-7. 配置イメージ（南南西を上にみる）

図 2-1. 市民センター側から見た外観イメージ

■ 個別テーマ①「**建築の構造**」

1.「高齢者・障害者等移動等の円滑化の促進に関する法律」尊守

公共の福祉増進に資するモデルとして、「**誘導基準**」**認定**をめざします。そのうえで、今回の機能特性を踏まえ、具体的な行動パターンや込み具合を想定し、より適切な構造、設備を設計します。

2.維持管理・ランニングコスト縮減・環境・パッシブデザイン

環境負荷低減技術、および自然エネルギーの活用により、**ZEB Ready**（**一次エネルギー消費 50%以上削減**）をめざします（個別テーマ④ご参照）。

3.「片上の歴史」を尊重、「景観」に配慮、「自然」との調和

片上港、片上鉄道、宿場町といった「**交通**」拠点の歴史を尊重し、**動き（＝活気）を感じさせる形態**、また「**交流**」拠点でもあったことから、**開かれ、迎え入れる印象**を重視します。

周辺に多い**勾配屋根**を採用、稜線を**片上湾を進む船**のように向け、軒先や庇、手すり、外壁見切材など**横ラインの金属**（ステンレスなど）が天候に応じ光を湛えるようにして（**波のきらめき**に呼応）、基壇部の落ち着きある**備前焼**あるいは**耐火煉瓦**とともに、「**未来と伝統の融合**」を体現します。それは外観上の「**動と静の融合**」の表現とも言えます。片上鉄道線路敷跡地は、片鉄ロマン鉄道に続く**片鉄ひろば**として、記憶を継承しつつ、サイクリングターミナルの活性化を最大にします。

4.構造の安全性、非構造部材の安全性 の確保

1 階の強固な壁が **2 階の床スラブ**を安全に支えつつ、1 階に柱のないホール空間を創ります。２階の床スラブは、高潮や津波に影響されない避難階となります。中央監視装置、受変電・防災設備など**重要設備機器**は 2、3 階に設置します。**非構造部材**は建築仕上材、設備機器類、造作家具など多種多様に及ぶため、それぞれに入念な対策を施します。

■ 個別テーマ②「**すべての人の利用に配慮した施設づくり**」

1.バリアフリー・ユニバーサルデザイン の重視

幸せに寄り添える公共建築だからこそ、障がいを持つ方々、高齢者、子ども、子育て世代はじめ、すべての市民が**身体的にも心理的にも、バリアを感じることなく訪れやすく、使いやすい環境**を整備します。

日進市立図書館（愛知県）の例：多目的トイレを１、２階１ヶ所ずつ設置。器具レイアウトを左右反転させ、片麻痺の方の使いやすいタイプがどちらかにあるように配慮　など

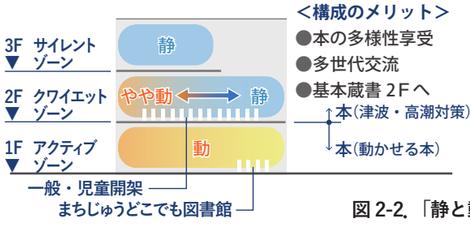
特に、開架エリアにおける「**心理的バリア**」の解消は数値化しづらく、見過ごされがちなので、大きなテーマとします。

2.パソコン・スマホ等 情報端末利用 の使いやすさ

全館 Wi-Fi 環境の整備。書架＋デスク配置モジュール（0.9mの倍数）による床配線の用意、主要デスクにコンセント設置などに配慮します。

3.機能的な事務室・バックヤードの配置

事務・作業室は 1,2 階とも利用者動線に寄り添いサービス提供＋管理しやすい配置。物流拠点として駐車場にも隣接。サービスデスク、レファレンスデスク、閉架書庫とのつながりも重視します。



※「基本計画（案）」における「**アクティブゾーン**」と「**クワイエット・サイレントゾーン**」の階を分ける基本方針を尊重しつつ、敷地面積の制約等から、基本蔵書を 2 階に上げる案でタタキ台を作成

図 2-2.「静と動の融合する図書館」イメージ

『第 33 回 図書館建築研修会・東日本大震災に学ぶ』のなかの「**非構造部材 - 起こり得る問題と対策**」「**家具類－本の落下対策を中心に**」 ご参照（本業務総括責任者 執筆）

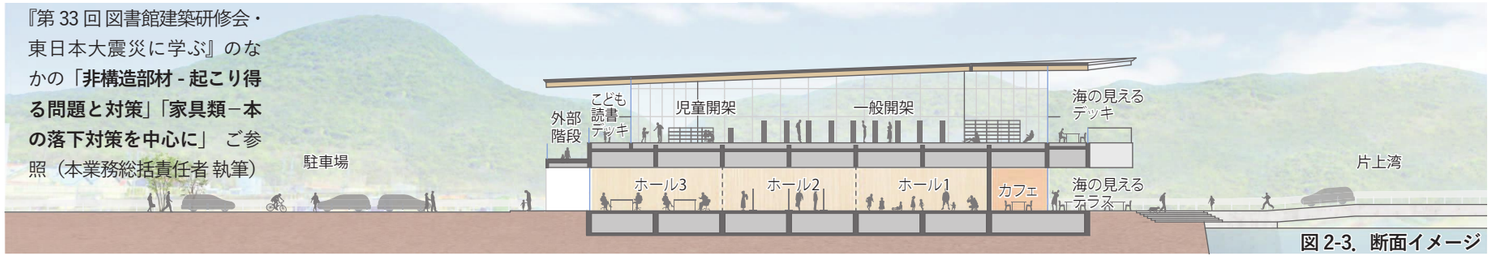


図 2-3. 断面イメージ

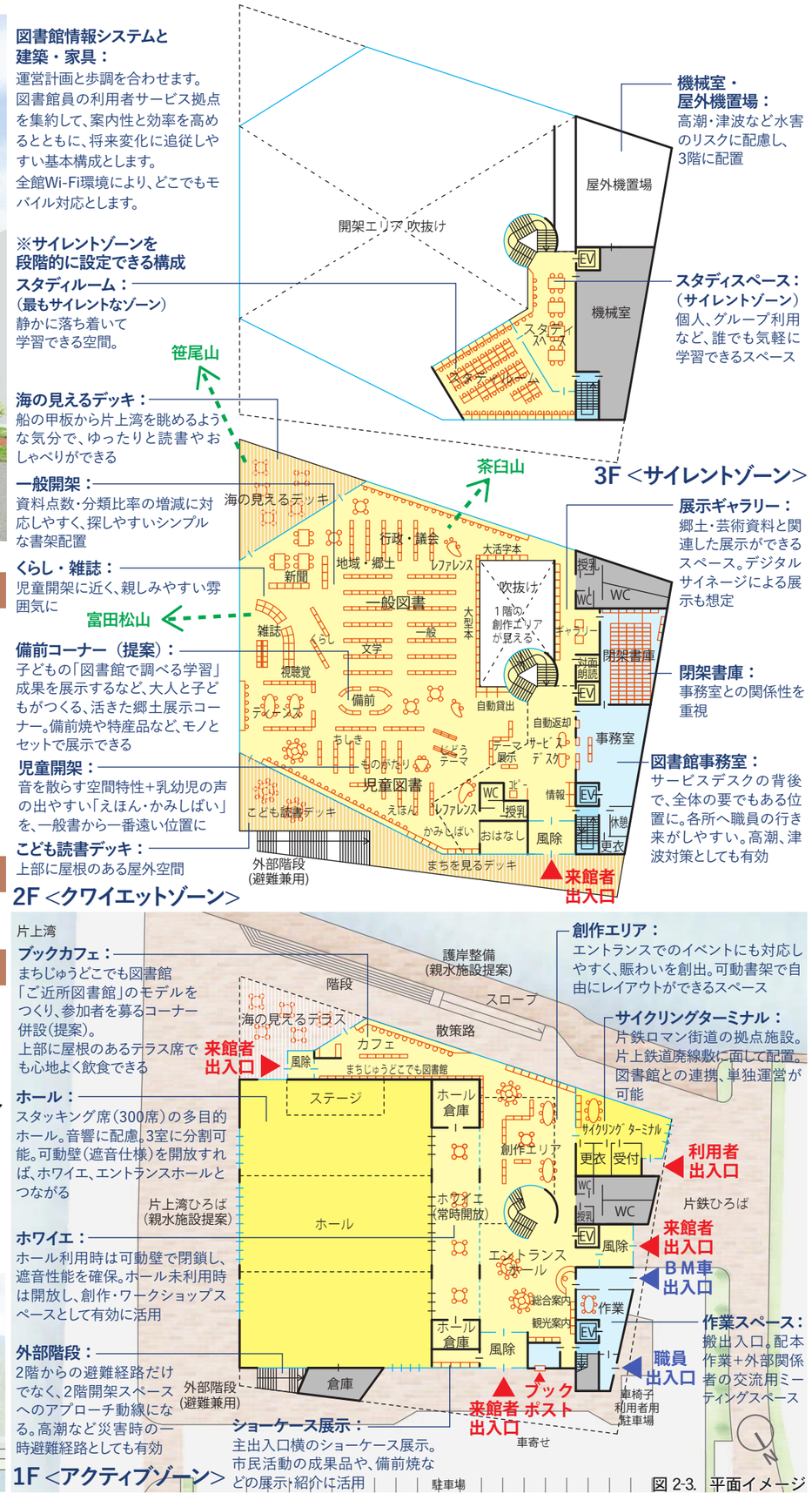


図 2-3. 平面イメージ

■ 個別テーマ③「**安全･安心･快適に配慮した施設づくり**」

1.「セキュリティ対策」「安心して利用できる施設」

1）様々なニーズ、異なる年代すべてに快適な居場所づくり

わかりやすさが出発点。回遊性を高め、見通しの良い建築構成に。全体を把握しやすくさせるとともに、「人の気配を感じさせる」=死角をなくし､防犯効果を高めます。

2）ひとりの時も、グループでも使いこなせる空間

ひとりで学ぶ、グループで学びあう目的に適したデスクや座のしつらえを多様に散りばめます。

3）乳幼児、子育て世代のためのスペースの確保

次代の備前市を支える若い世代が、多様に使いこなせるように、児童開架周辺などに**子育て機能**を用意します。

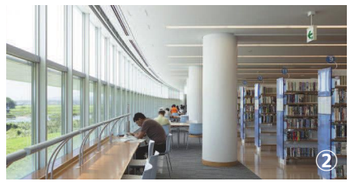
2.「利用者が快適に過ごせる施設」

1）室温、湿度、設備環境 を快適に

体感でも心理的にも気にならない状態の環境を維持します。（個別テーマ④「環境に配慮した施設づくり」-2. ご参照）

2）採光、色調などデザインのこだわり

主役である**本や人の顔が、魅力的にいきいきと見える空間**が市民の学ぶ気持ちを明るく支えます。**自然光と照明の組合わせ方､色彩計画**は､その視点で工夫します。



①気仙沼図書館･児童センター（児童開架）、②北茨城市立図書館（一般開架）: ライトシェルフ（庇）にて南面の直射光を制御しつつ、外の景色を楽しめる＋明るさを屋内まで引き込む＋本の退色を防ぐ。書架側板は､①地場産杉材を縦格子状に活用､②は水辺のイメージで色アクリル２枚に透けた布を挟むデザインなど、その土地ならではの工夫

3.「視認性、開放性」が高い施設

外から内部の様子がわかりやすく､にぎわいが滲みでて、人を誘い、**街の活気を再生する起爆剤**となります。

■ 個別テーマ⑤「**図書資料の保全**」

1.「高潮や津波」などに対する蔵書への配慮

図書館の開架エリアの主体・書庫ともに、**安全な２階に配置**します。１階は創作エリアの本、ブックカフェ（ご近所図書館モデル＝市民に参加呼び掛け用）程度とし、いざという時に２階に避難できる冊数を提案します。

2. 自然採光をとり入れつつ、図書資料を健全に維持

窓ガラスには紫外線 99%カットの飛散防止フィルムを貼り､かつ**庇（ライトシェルフ）**より上部はフィルムをマット仕様とし**光を拡散＋ロールブラインドを併設**し、光の量を調節できるようにします。また、窓辺は人のための快適エリアとし、**書架**は極力窓面から離します。

3. 耐震性の高い書架を設置

床または壁面に強固に取付、**書架転倒を絶対に避ける構造**とします。免震書架も検討します。頭より高い位置は、重い本を置かない計画を前提とします。

豊饒の海に向かって進む 大屋根
船の甲板にも似た「海の見えるデッキ・テラス」

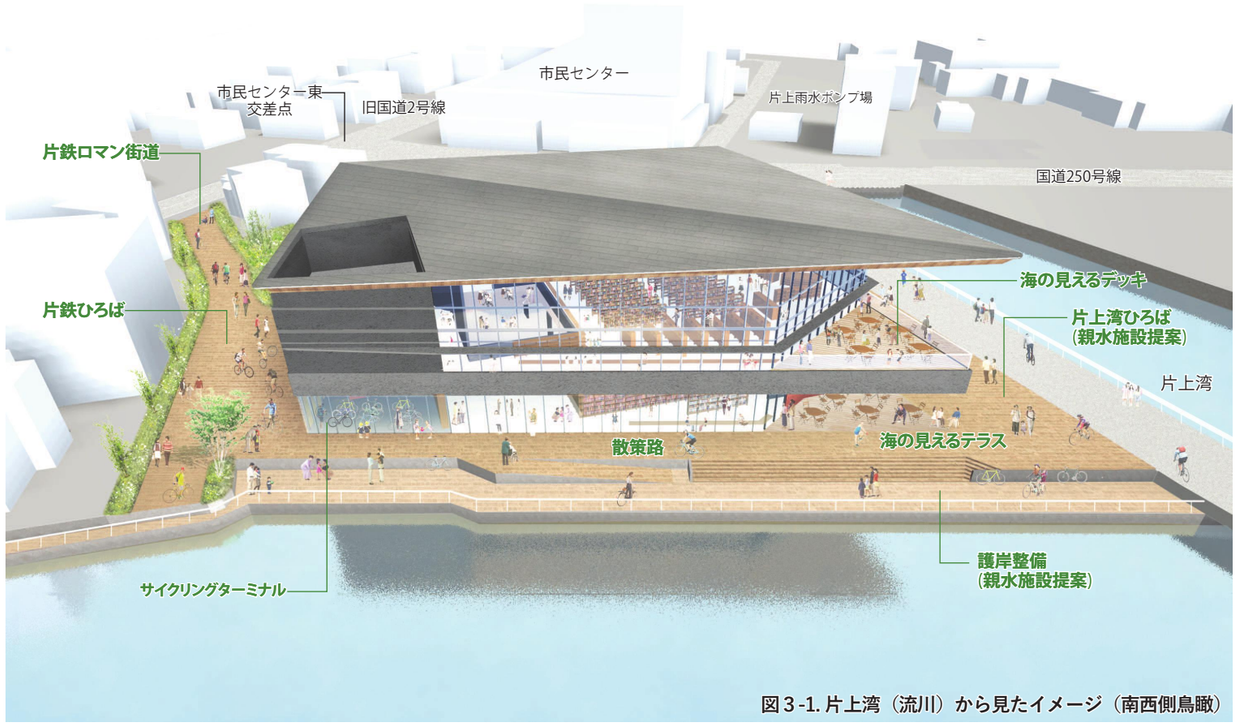


図３-1. 片上湾（流川）から見たイメージ（南西側鳥瞰）

図３-２．１階創作エリア・ブックカフェ イメージ（散策路から見る）

図３-３．２階開架エリア イメージ（３階スタディルームから見る）

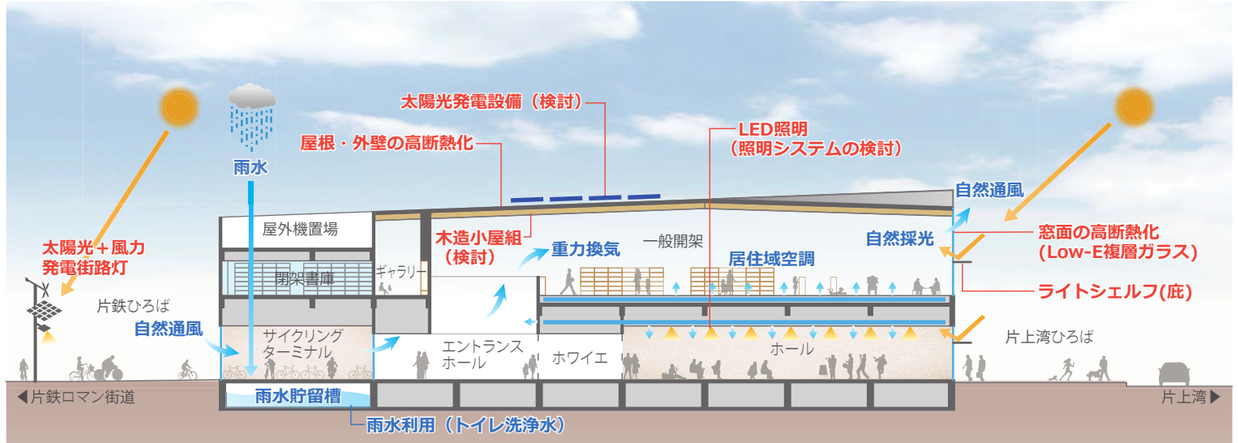


図３-4.　断面イメージ（北西 - 南東断面。光、風、雨水など自然エネルギーを活用する建築）

■ 個別テーマ④「**環境に配慮した施設づくり**」

1.「構造体の耐久性と劣化防止」への配慮

1）「物理的」な寿命向上

◎**耐久性・強度**の高いコンクリートの採用　／◎**高耐候性**金属外装材等の採用　／◎**汚れにくい**、汚れの**目立ちにくい**材料の選定　／◎修繕、改修工事の**搬入ルートと作業スペース**の確保　／◎ステンレス製配管や水槽など**高耐久性**設備機材や設備機器の使用 など…建築や設備機器の長期間使用を可能にします。

2）「機能的」な寿命向上

◎**構造と設備の分離**：設備更新のしやすさ（機器取替時、躯体や仕上を無駄に壊さず作業可能に）／◎**レイアウト変更の柔軟性、ゆとりある床荷重設定**：改装の自由度を高める（特に図書館の書庫拡張など重荷重想定スペースなど、将来予測も協議項目）など。

2. 維持管理のしやすさ・コスト縮減・環境配慮・常時換気

1）イニシャルコスト縮減 のための工夫

◎華美・希少な建材を避け、**一般流通材（既製品）**を種類を限定して採用：競争原理を働かせ、**スケールメリットによる単価の低減**を狙います　／◎設備、照明など設備機器も**信頼のおける既製品**を採用：製品代に加え、施工費も低減できる取付工法を工夫等

2）環境配慮・ランニングコスト縮減 のための工夫

◎外壁・屋根面の**高断熱化**：負荷の大きい窓は Low－E 複層ガラスを採用　／◎**高効率・高耐久**設備機器による合理的縮減／◎**自然採光**：反射光を巧みに組み合わせて、豊かで柔らかな光が空間を包み込むように／◎**節水器具・擬音装置**：水の使用量を削減　／◎**雨水利用**：トイレ洗浄水等に利用　／◎**100%LED 照明**：照明システム（各種センサーによる明るさ制御、タイムスケジュール制御）を検討。防災用器具の蓄電池交換コストも低減　／◎**太陽光発電**：照明電力などに利用（設置規模は要検討）　／◎**維持管理費低減へのサポート**：清掃費を低減する床材等の選定とメンテマニュアル、設備機器の合理的な運転マニュアル作成

3）常時換気、空間の特性に応じた 空調計画

◎**自然通風（換気）：入口・通り道・出口の３点セット**を明確に設定、開けやすい窓を効率的に配置　／◎**機械換気**：24 時間換気対応、適切配置　／◎**開架エリア**は**居住域空調**でエネルギー削減　／◎**諸室**：部屋ごとに On/Off や温湿度調整が可能な個別空調方式　／◎**お話室**：床輻射暖房（床暖房）を採用など

4）森林の循環利用：「県産材」利用と温かみのある建築

◎構造材：木造小屋組みを検討

◎内外装材：軒天井、床、壁、天井、家具など積極的に木材活用を検討します。

3. 書架・什器のフレキシビリティ

0.9mの倍数（書架間隔 1.8m等）モジュール設計で配置換えしやすいオープンプラン。棚板やブックエンド、展示台等も相互に入替可能なシステム設計とします。

図 4-1. 海から見たイメージ（南側鳥瞰）

■ 業務実施方針について

1. 業務を遂行する上での意欲や姿勢について

備前市の「**歴史を尊び、未来を拓く**」 拠点となる図書館。
自分のルーツとなる「**家族**」と過ごした記憶が辿れる場所。「**ふるさと備前市**」の輝かしい記憶を再発見できる場所…。
そうした**恒久性を持つ公共施設の実現に貢献すること**が建築家の使命であり、喜びです。
これまで培ってきた図書館・公共建築のノウハウを最大限発揮します。“また来たい”と思わせる使いやすさ、空間の魅力に加え、建築の耐久力、可変性なども重視します。

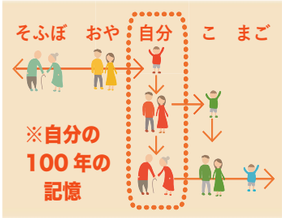


図 4-2. 五代に渡る家族と自分
祖父母に手を引かれ通ったこの施設に、自分の子どもと一緒に、さらには孫も連れて訪れる…。五代にも渡る家族の記憶を辿れる場所がある…、それが**ふるさと**

2. チームのマネジメントについて

実績のある専門家集団によるチーム力を発揮します。
図書館建築に精通する経験豊富な建築家、エンジニアを中心に、多くの公共建築の設計に携わってきた機動力ある専門家集団を組織し、最大限の熱意を持って全力で業務に臨みます。
また、子育て真っ盛り世代、その予備軍、孫に囲まれている世代など、**今回の建築の使命をジブンゴトとして、それぞれの日常を反映できるチーム**編成で臨みます。

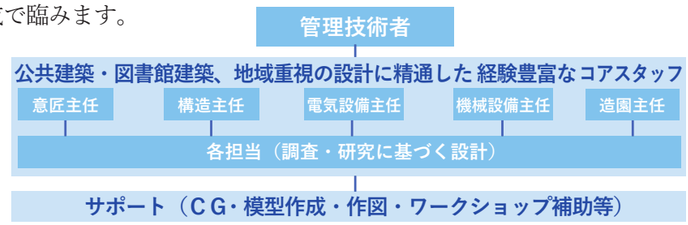


図 4-3. 設計チームの構成

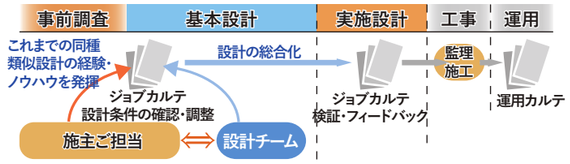
3. 発注者との連携など について

市民に愛され続ける建築づくりにあたり、備前市を**知る努力**を続けます。
ご担当者との打合わせや市民との協働は、**コアスタッフ**（総括責任者と各主任技術者、各担当者）が中心に行い、**実り多い連携**を心掛けます。
資料作成や調査、複数の各課との協議など、設計工程に合せてサポートチームの人員体制を強化し、迅速かつ的確に業務を遂行します。
また、段階ごとに決めるべきこと＋そのタイミングを明示し、使い方ご検討期間を極力長く確保しつつ、**後戻りのないスケジュール管理**を行います。

■ 設計の具体的な進め方について

1.「ジョブカルテ方式」の採用

設計与条件を具体的に各室の意匠、電気、機械、家具備品などの項目に分け、集約した「**ジョブカルテ**」を作成し、関係者で情報共有します。（図面や議事録では**見落としがちな項目を網羅的に把握。短期間の設計**に威力を発揮）



ここの照明は調光できるように、この流しはお湯も出るように…など、細かなことの積み上げが、大きな差を生みます!!
図 4-4. ジョブカルテ方式

2. 実感・納得の共有化／ 設計内容の “みえる化”

開館後の活発な使いこなしのためにも、設計段階からの**プロセス**を重視。
市のご担当、多くの市民の「**設立に参画した思い**」が、**開館後の愛着の輪を広げます。**
模型やパース等、ビジュアルでわかりやすい表現を駆使し、関係者間の、共通理解・納得を推進します。

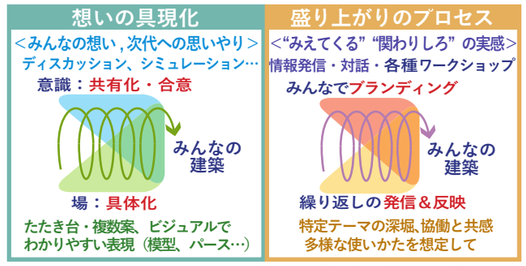


図 4-5.「みえる化」のプロセス

3. 市民ワークショップの実践と効果

設計段階から工事中、オープン後まで継続開催することを提案します。
以下、弊社の実践例（すべて弊社協働、写真も弊社撮影）

＜設計段階＞
①どのような使い方をしたいか（佐倉市図等複合）対象：一般／グループ→全体で対話　**②模型のなかを歩いてみる**（八千代市中央図・市民ギャラリー）：小中生／立体的なつながりを確認
③図面のなかを想像で歩いてみる（日進市立図）：一般／棒の先の人形になって室内歩き、使い方を検証→設計に反映

＜現場段階～開館後＞
④工事現場は優れた理科教材（北茨城市図など）：親子／建築の話＋現場見学＋働く車に乗るなど　**⑤水仙ワークショップ**（気仙沼図）：小学生／工事中移植していた水仙を敷地庭に戻す
⑥てつがく探検隊（同上）：フリー／地域をフィールドワーク→てつがく対話→図書館で調べる。開館後の使い方検証

4. 設計スケジュール

これまでの実績を踏まえ、短期間での設計工程を実現します。そのために、打合せとジョブカルテを併用し、与条件整理と複数案の検討を同時に進めます。
パースや模型で具体的に**“みえる化”**するなど、**発注者の皆様の合意形成**を図りつつ、設計に反映します。

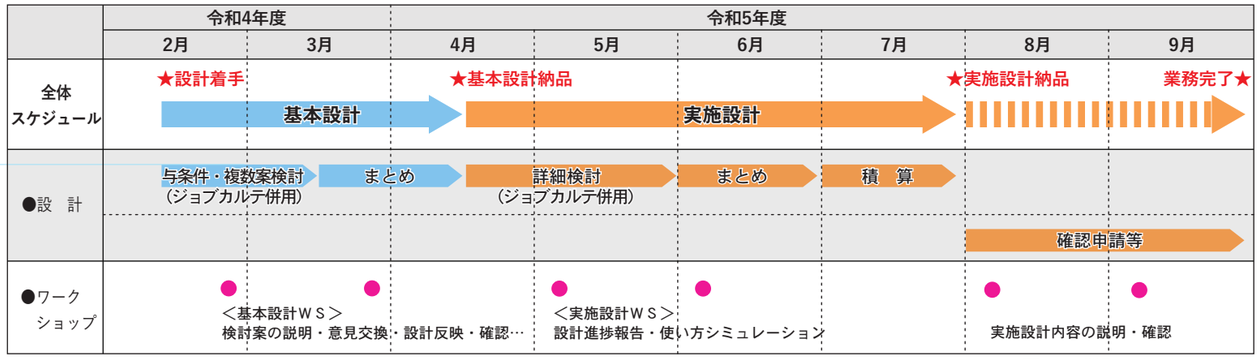


図 4-7. 業務スケジュール表

■ その他の重点項目、実績など

1.「建築計画」を重視するアプローチ

利用者の**使いやすさ・快適性**とともに、運営面での**合理化、省力化、作業効率向上**も重要テーマとして位置づけます。また、**SDGs** を実践・体現する建築のあり方も重要テーマとします。
図書館建築として、これまでの設計経験＋大勢の図書館員や公共施設職員との交流から得た知見を、過不足のない**費用対効果の高い設計**に活かします。＜弊社設計の図書館は高い評価を頂いています。3 例を紹介＞

新潟市立中央図書館
受賞：第 26 回日本図書館協会建築賞 / 第 13 回公共建築賞優秀賞 / JIA 優秀建築選 2008 他
掲載：『年報こども図書館 2011』/ JLA 図書館実践シリーズ『よい図書館施設をつくる』/ 明治大学図書館司書課程メディア教材 他

日進市立図書館（愛知県）
受賞:H24 年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン内閣府特命担当大臣表彰優良賞（**図書館では全国初**）/ 第 17 回愛知県人にやさしい街づくり賞特別賞 他
掲載：JLA 図書館実践ｼﾘｰｽﾞ『よい図書館施設をつくる』/『市民とつくる図書館』他

八千代市立中央図書館・市民ギャラリー（千葉県）
受賞：第 33 回日本図書館協会建築賞 / 第 10 回キッズデザイン賞（**図書館として全国初**）/ 第 22 回千葉県建築文化賞入賞 他
掲載：JLA 図書館情報学ﾃｷｽﾄｼﾘｰｽﾞ III『図書館施設論』/ 近代建築 1512 他

本業務総括責任者は、複数の大学の図書館司書課程で『図書館施設論』の講義を担当、図書館界での委員会活動、図書館調査研究活動なども継続、最新の図書館事情に精通しており、それを本業務に活かします。

2. 市民に寄り添うインテリア・家具設計の重視

家具設計を重視します。**基本的な書架システム**（耐久性 × 柔軟性、合理的な寸法体系、パーツの互換性、補充のしやすさなど）に加え、本や備前焼などを**魅力的に見せる展示＋イベント用家具**提案図も複数つくります。
家具設計は建築と同時にスタート、**機能性とデザイン性を両立**させます。

北茨城市立図書館（児童開架）：
棚板・展示台・サイン等の互換性をシステム化。開館後も変えていける

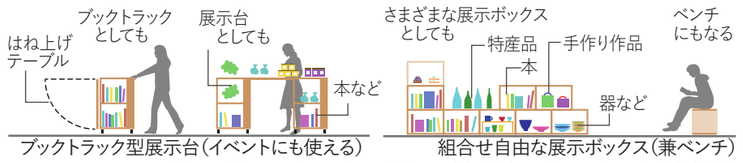


図 4-6. 展示・イベント用家具の一例（選択できるように多種類提案）